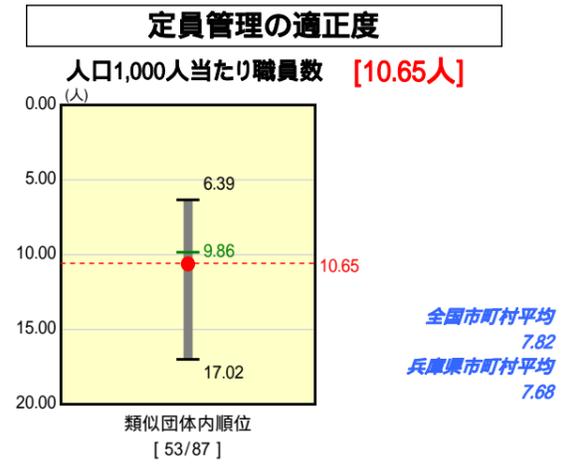
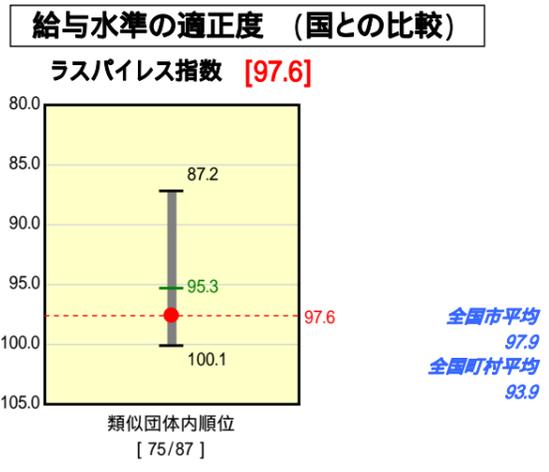
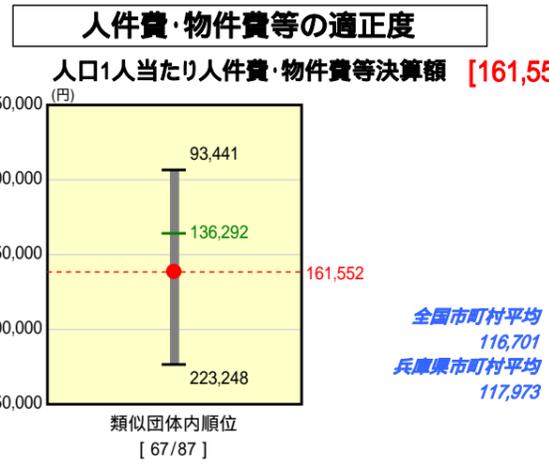
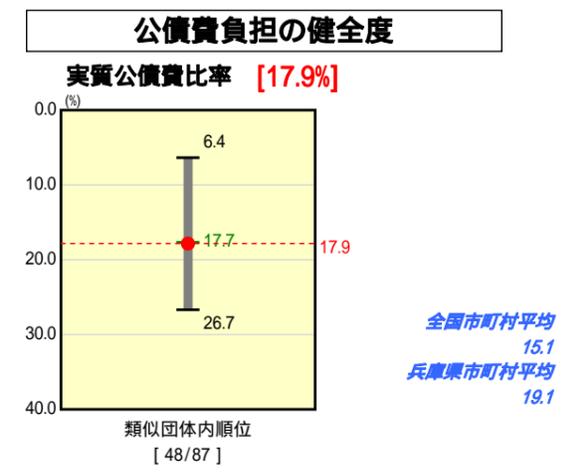
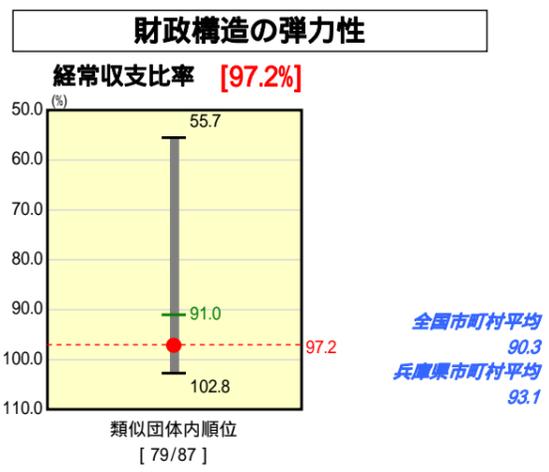
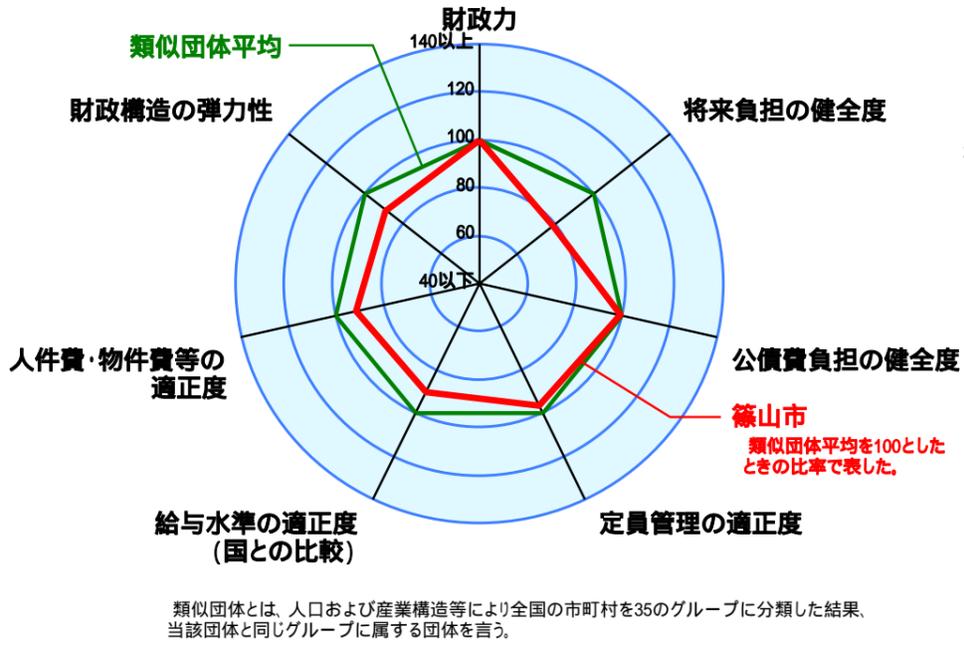
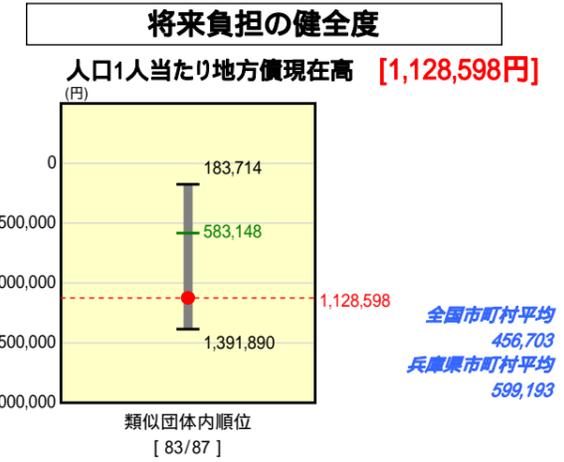
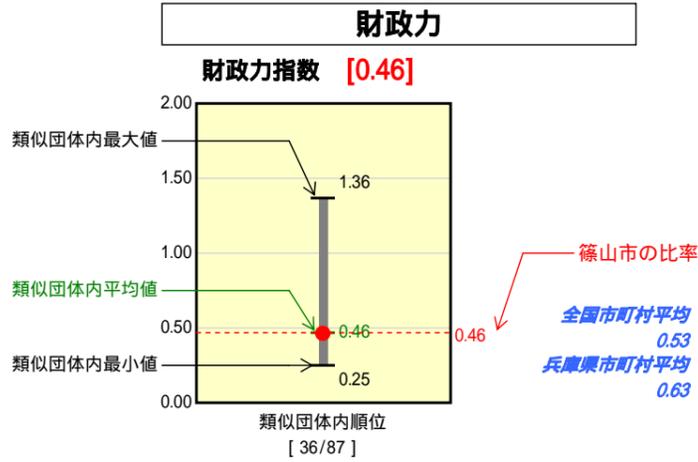


# 市町村財政比較分析表(平成18年度普通会計決算)

## 兵庫県 篠山市

人口	45,995	人(H19.3.31現在)
面積	377.61	km <sup>2</sup>
歳入総額	22,617,138	千円
歳出総額	22,263,188	千円
実質収支	328,239	千円



### 分析欄

**財政力指数**  
昨年と同じ類似団体内の平均数値となった。これは三位一体改革による市税増があるものの下水道事業を含めた公債費も増加しているためである。今後は投資的経費の抑制や繰上償還等をおこない財政基盤の強化に努める。

**経常収支比率**  
前年度に比べ4.9ポイント悪化した。これは、下水道事業への繰上基準の変更により経常経費が増加したためである。今後は公債費の償還や下水道・水道への繰上金が増加する見込みであることから、各会計とも新規借入を最小限に抑え、公的資金補償金免除等の繰上償還により指数の抑制に努める。

**人口1人当たり人件費・物件費等決算額**  
前年度に比べ6千円改善しているものの類似団体内平均よりも1割強多い額となった。管理職手当の削減、退職者不補充など人件費の抑制に努めているものの合併による施設の統廃合がすすんでおらず維持管理経費が多くなっている。今後は指定管理者制度を含め施設の運営の見直しに努める。

**人口1人当たり地方債現在高**  
類似団体内の平均に比べ約2倍と高い水準だが、前年度に比べ兵庫県平均で約2万円の減となるなかで本市は約4万円の減となった。これは、新規地方債の発行の抑制ならびに既に借入しているものについては繰上償還をおこなったことによる。平成15年度をピークとして減少傾向にあるが人口の減もあることから今後も類似団体内平均の水準をめざし健全化に努める。

**実質公債費比率**  
類似団体内の平均と同水準の17.9%だが、前年度に比べて1.9ポイント悪化した。これは、下水道会計への繰上基準が変更になったことから指数が大きな伸びを示している。今後は下水道事業への繰上金が増加する見込みであることから、各会計とも新規借入を最小限に抑え、公的資金補償金免除等の繰上償還により指数の抑制に努める。

**人口1,000人当たり職員数**  
平成17年度に策定した第2次定員適正化計画の目標値509人(平成26年4月)については、平成20年4月において前倒しで達成。今後においては、第3次定員適正化計画を策定し、より一層の職員の削減に努める。

**ラスパイルズ指数**  
昨年の指数から0.3低下し、全国市平均を下回っているが、合併以前の旧町間における給料格差の是正措置を行ったため類似団体内平均については上回っている。平成20年度からは、給与削減を実施していく予定であり、より一層の給与水準の引き下げを行い、給与の適正化に努める。